業績のハイライト

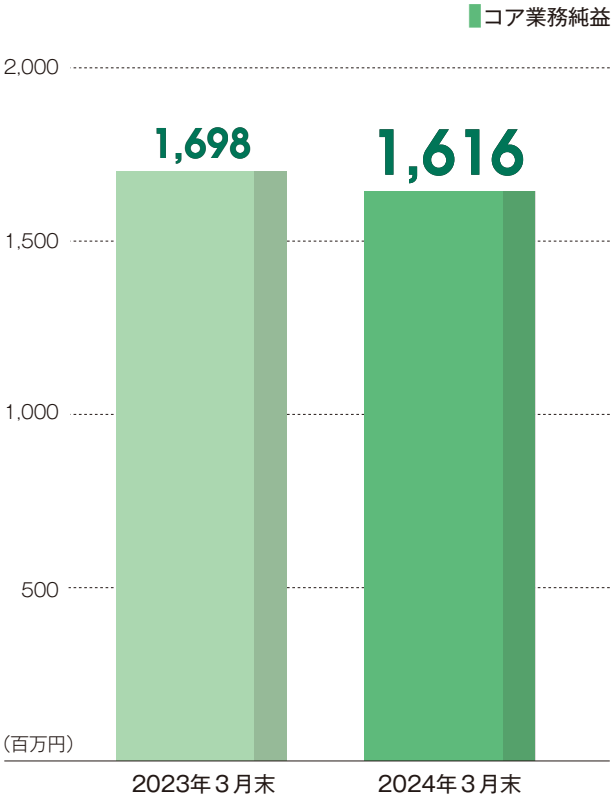
収益面においては、経常収益が 9,317 百万円（前期比 1,306 百万円の増加）、経常費用が 7,688 百万円（同 1,164 百万円の増加）となりました。経常利益は 1,628 百万円（同 142 百万円の増加）、特別損益 0 百万円計上後の税引前当期純利益は 1,628 百万円となりました。法人税、住民税及び事業税 336 百万円、法人税等調整額 107 百万円を減算した当期純利益は 1,185 百万円（同 174 百万円の増加）となりました。

損益の状況

経常収益の内訳は、貸出金利息は残高減少により 4,456 百万円（前期比 1.2% 減）、有価証券などの運用収益は利回り向上と円安効果により 2,784 百万円（同 12.7% 増）、役務取引等収益は 722 百万円（同 0.9% 増）、その他業務収益は国債等債券売却益等の増加により 96 百万円（同 193.4% 増）となりました。その他経常収益は貸倒引当金戻入益、株式等売却益の増加により 1,257 百万円（同 343.7% 増）となりました。

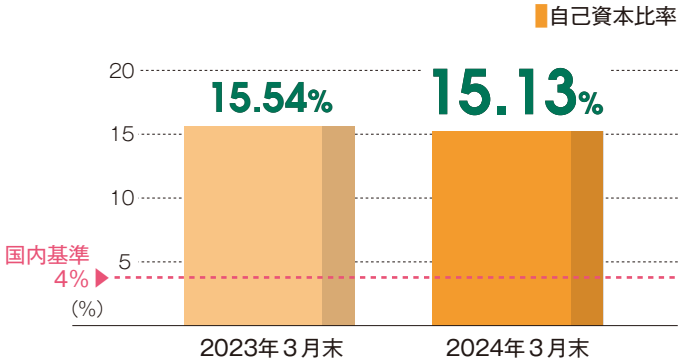
一方、費用面においては、経常費用が 7,688 百万円（同 17.8% 増）となりました。主な内訳は預金利息などの調達費用が 806 百万円（同 65.6% 増）、経費については、物件費 1,470 百万円（同 2.3% 減）人件費 3,241 百万円（同 2.0% 減）、その他業務費用は、国債等債券売却損の増加により 1,353 百万円（同 468.9% 増）、その他経常費用は 274 百万円（同 40.7% 減）となりました。その他経常費用の内訳は、貸出金償却 21 百万円、株式等売却損 105 百万円、その他の経常費用が 142 百万円（同 200.6%増）となりました。

以上の結果、業績のハイライトに記載のとおりの利益計上となりました。なお、コア業務純益は 1,616 百万円と前期比 81 百万円の減少となりました。



自己資本比率の状況

2024 年 3 月末の自己資本比率は 15.13%（前期比△0.41%）となりました。引き続き十分な水準を維持し、経営体質の健全性、安全性が確保されています。

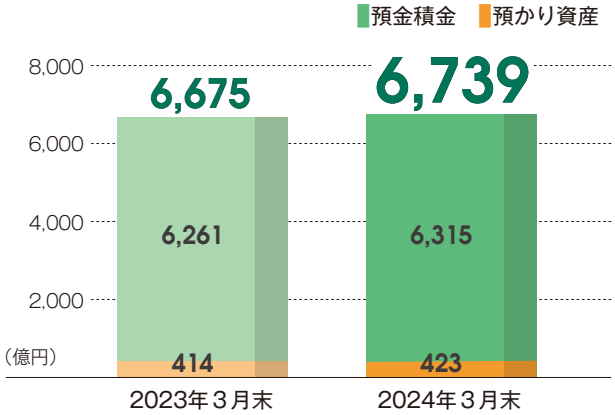


預金積金・預かり資産の状況

2024 年 3 月末の預金積金残高は、631,556 百万円、前期比 5,409 百万円（0.9%）の増加となりました。科目別内訳では、普通預金など要求性預金が前期比 15,621 百万円の増加、定期預金、定期積金合計が 10,234 百万円の減少、外貨預金は 22 百万円の増加となりました。外貨預金を除く人格別残高では、個人預金が 500,192 百万円と前期比 2,284 百万円の増加、法人預金が 130,966 百万円と同 3,102 百万円の増加となりました。

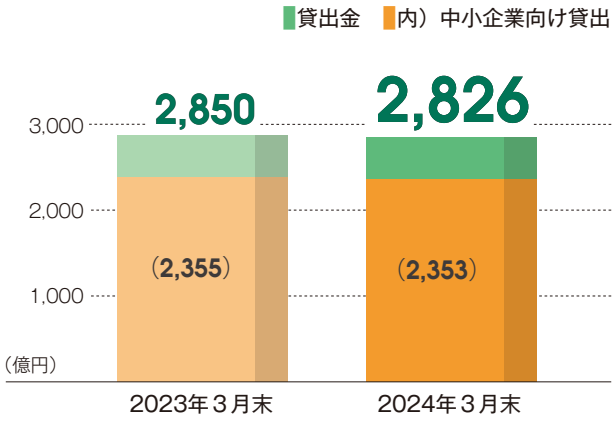
預かり資産残高（国債･投資信託･個人年金保険･終身保険の合計）は 42,320 百万円、前期比 873 百万円（2.1%）の増加となりました。

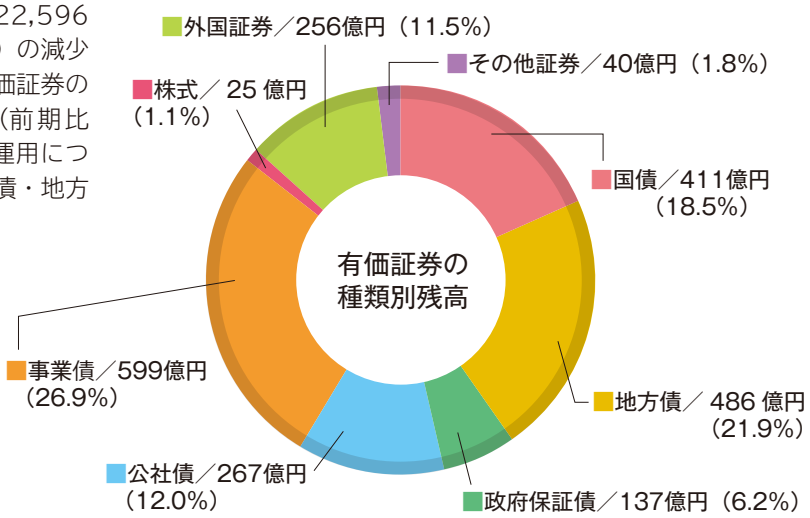
以上の結果、預金積金と預かり資産の合計残高は、673,977 百万円、前期比 6,383 百万円（1.0%）の増加となりました。



貸出金の状況

2024 年 3 月末の貸出金残高は、282,615 百万円、前期比 2,451 百万円（0.9%）の減少となりました。科目別内訳では、割引手形 59 百万円の減少、手形貸付が 541 百万円の増加、証書貸付が 2,825 百万円の減少、当座貸越が 107 百万円の減少となりました。人格別残高では、法人が 701 百万円の増加、個人が 3,152 百万円の減少となりました。資金使途別残高では、運転資金が 5,254 百万円の減少、設備資金が 4,092 百万円の増加、個人住宅関連資金が 1,452 百万円の減少、個人消費資金が 163 百万円の増加となりました。



有価証券の状況

2024 年 3 月末の有価証券残高は 222,596 百万円、前期比 5,717 百万円（2.5%）の減少となりました。内、その他保有目的の有価証券の評価損益は 3,583 百万円の評価損（前期比 1,514 百万円悪化）となっています。運用については、安全性・流動性を重視して、国債・地方債等の公共債を中心に行っています。